

題 材 「だれが書いたの・・・」(対象：高学年)

1 ねらい

インターネット上の基本的なルールやマナーについて理解させる

2 場面設定

自分のブログに中傷する書き込みがあった

3 指導の流れ

□ (プリントを配付し、前段の部分を読む。)

インターネットは、世界中の情報をすぐに調べたり、遠くに離れている人ともメールなどで連絡を取り合ったりすることができるなど、とても便利なもので、私たちの生活にはなくてはならないものです。

みなさんも、今後、パソコンや携帯電話などを使って、インターネットを活用する機会が増えていくことでしょう。

しかし、その陰で、いじめや犯罪などが起きていることも事実です。

□ インターネットを使うときは、ルールやマナーを必ず守ることが大切です。

資料の下半分を見てください。

※ 資料を元に、説明する。

□ 人の悪口などを書き込んで、相手を傷つけたりすることで、訴えられたり、逮捕されたりすることもあります。

実際にこんなことがありました。

ある高校生のホームページに、何回も深く傷つくような言葉の書き込みがありました。高校生は、保護者と一緒に警察に相談しました。その後、加害者は、警察によって「名誉棄損」の罪で逮捕されました。

加害者は、「軽い気持ちでやった」などと言っているようですが、被害者は大きな不安を感じ、本当に嫌な思いをしていました。

□ インターネットは（今度、総合的な学習の時間にしっかりと学ぶことにしていますが）とても便利なものですが、みんなが安心して利用するためには、ルールやマナーをしっかりと守ることが大切です。

# だれが書いたの・・・

いったい  
一体だれが書いたの？  
こんなことして何が楽しいの？



(※) わたしは、ブログを見るのを楽しみにしています。

ある日、わたしのブログに、からかうような書き込みがありました。

だれが書いたのかは分かりません。

こわくなって、母に相談すると、「すぐにブログはやめなさい」と言われました。

毎日楽しみにしていたのに、一体だれがこんなひどいことを・・・  
不安といかりがこみ上げてきます。

(※) ブログ・・・インターネット上に公開している日記のようなもの

## ブログや掲示板などに参加するときのルールやマナー

ブログや掲示板などに参加するときは、基本的なルールやマナーを守りましょう。

○ ウソや本当かどうか分からないことを、正しいことのように書いてはいけません。

○ 書き込むときには、相手を傷つけないように、注意深く言葉を選びましょう。乱暴な言葉、きたない言葉は使ってはいけません。

○ 人の悪口を書いたり、いやがらせをしたりすることは絶対に行けません。

題 材 「仲よくしたいのに・・・」(対象：中学年)

1 ねらい

互いの違いを理解し、尊重し合う心情を育む

2 場面設定

言葉の違いから、転校先の学校に馴染めない

3 指導の流れ

□ (プリントを配付し、全部読む。)

転校生がなかなかクラスに馴染めずに、寂しい思いをしていますね。

お母さんとの会話を聞いて、みなさんどう思いますか？

山口弁にしないといけないのでしょうか？

□ 言葉が違ったら、みんなと仲よくできないのでしょうか？

仲よくなって、自分たちの知らない大阪のことを聞いたり、大阪弁を教えてもらったりするほうが、ずっと楽しいですね。

それと同時に、山口のすばらしさを転校生に伝えることができたらいいですね。

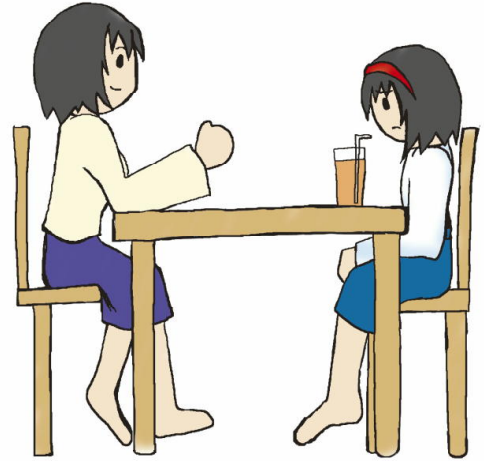
□ みなさんの中に、顔や声、話し方や考え方が全く同じ人はいませんよね。

「十人十色」(板書)という言葉があります。これは、「好きなものや考え方などは、人によってそれぞれ違う」という意味です。

一人ひとり違って当たり前です。違いがあるからこそ、いろいろな考え方や感じ方を学び合うことができるんだと思うよ。

# なか 仲よくしたいのに・・・

だれか<sup>とも</sup>友だちになってほしいな  
ひとりぼっちはさみしいよ



わたしは、お父<sup>とう</sup>さんの仕事<sup>しごと</sup>の関係<sup>かんけい</sup>  
で、生まれ育<sup>う</sup>った大阪<sup>おおさか</sup>から転校<sup>てんこう</sup>して  
きました。

大阪<sup>おおさか</sup>では、たくさんの友だち<sup>とも</sup>と、  
毎日<sup>まいにち</sup>楽しくすごしていました。

でも、この学校<sup>がっこう</sup>では、言葉<sup>ことば</sup>が少しちがうことでみんなに冷やか<sup>ひ</sup>  
されたり、仲間<sup>なかま</sup>に入れてもらえなかったり、とてもさびしい思い<sup>おも</sup>  
をしています。

ある日<sup>ひ</sup>、お母<sup>かあ</sup>さんに相談<sup>そうだん</sup>してみました。

わたし 「うち、学校<sup>がっこう</sup>で仲間<sup>なかま</sup>に入れてもらえへ  
んのや。」

母<sup>はは</sup> 「何<sup>なん</sup>で？」

わたし 「大阪<sup>おおさか</sup>弁<sup>べん</sup>つこうとるからちゃう？」

母<sup>はは</sup> 「そら、山口<sup>やまぐち</sup>弁<sup>べん</sup>になれなあかな。」

わたし 「うち、大阪<sup>おおさか</sup>が好き<sup>す</sup>やねん。山口<sup>やまぐち</sup>弁<sup>べん</sup>に  
せなあかんのやろうか？」

題 材 「ぼくにおしつけないでよ・・・」(対象：高学年)

1 ねらい

一人ひとりを尊重する集団の大切さを理解させる

2 場面設定

自分の意見が言えないまま係が決まってしまった

3 指導の流れ

□ (プリントを配付し、全部読む。)

私たちのクラスでも、学級の仕事をみんなで分担していますが、どの係もなくてはならない役割ですね。

資料の中では、佐藤君は学習係になりたいと思っていましたが、自分の意見が言えないまま、係が決まってしまいました。

□ もちろん、飼育係はとってもやりがいのある重要な仕事です。

ただ、ここでの問題は、係の決め方です。

□ 「じゃあ、佐藤は？」と聞かれたときに、「ぼくは学習係になりたい」と自分ではっきり意見が言えたらよかったのかもしれませんが、やるともやらないとも言っていないのに、もう決まったかのような雰囲気になってしまいました。

佐藤君にしてみれば、みんなから押しつけられたという思いが残るはずです。

□ クラスの雰囲気というのはとても大切です。

誰もが自分の意見や考えを安心して言えるのは、どんなクラスでしょうか？

例えば、最後まで真剣に話を聞いてくれる、違う意見も大切にしてくれる、一人ひとりの意見を認めてくれるなどの雰囲気があるクラスだと思います。

逆に、なかなか意見が言いにくいのは、どんなクラスでしょうか？

例えば、一部の人の意見で決まってしまう、誰かが意見を言うとすぐに冷やかされる、答えを間違ったら笑われるなど、一人ひとりが大切にされない雰囲気があるクラスだと思います。

□ みなさんには、自分の思ったことが安心して言える、違う意見でも大切に受け止めてくれる、そんな一人ひとりを大切に作るクラスになってほしいと願っています。

# ぼくにおしつけないでよ・・・

ぼくだってやりたくないのに  
いつもイヤなことをおしつけて・・・

佐藤さとうくんのクラスでは、班員はんいんみんなで、係かかりの仕事しごとを分担ぶんたんしています。  
佐藤さとうくんは、次つぎは学習がくしゅう係かかりになりたいと思っています。  
いよいよ係かかりを決きめることになりましたが・・・



先生せんせい 「それでは、今いまから班はんに分わかれて、係かかりを決きめます。みんなで話し合はなって決あめてください。」

【佐藤さとうくんの班はんの話し合はないの様子ようす】

「それじゃあ、係かかりを決きめよう。」

「飼育しいく係かかりは、これからは寒さむいから大變たいへんだよね。」

「だれがする？」

「今井いまいはどうだよ？」「えー、イヤだよ。」

「じゃあ、佐藤さとうは？」「え、ぼくは・・・」

「お、やってくれるのか？」「じゃあ、決きまりね！」

「みんな、はく手しゅー！」

ぼくは、自分じぶんの意見いけんが言いえないまま、係かかりが決きまっ  
てしまいました。

題 材 「さそってくれないかな？」(対象：低学年)

1 ねらい

周りの人にもしっかり目を向け、皆で楽しく過ごす方法を考えさせる

2 場面設定

教室で、皆の輪からはずれて、独りぼっちでいる

3 指導の流れ

□ (プリントを配付する。)

みなさんは、この絵を見てどう思いますか？

輪になって話をしている人たちは楽しそうですね。

□ でも、独りぼっちの人は、どんな気持ちでしょう？

「さびしいなー」「みんなと一緒に遊びたいなー」・・・

そんな気持ちかな？

□ みなさんは、毎日、学校でたくさんの友だちと一緒に生活しています。

もし、一日中、誰も話かけてくれなかったら、どうでしょう。

先生だったら、とても寂しい気持ちになります。

□ 友だちと一緒に楽しく過ごすことは、みんなの願いだと思いますし、先生もそう願っています。

もし独りぼっちで寂しそうにしている人がいたら、「どうしたの？」「一緒に遊ぼう！」と声をかけてあげてください。

きっとその人は、みんなが誘ってくれることを待っていますよ。

# さそってくれないかな？

みんなはいつも<sup>たの</sup>楽しそう  
わたしはいつもひとりぼっち・・・





題 材 「何でそうなるの？」(対象：中学年)

1 ねらい

相手の気持ちを尊重した言い方の大切さを理解させる

2 場面設定

サッカーの試合に負け、メンバーの心が離れた

3 指導の流れ

□ (4コマ漫画を配付する。)

みんなが勝利をめざしてサッカーの試合をしていますね。しかし、残念ながら、負けてしまいました。

2コマ目に、キャプテンが、「どこねらってシュートしてんだよ」と言っていますね。

このキャプテンの発言をみなさんはどう思いますか？

□ 「いくらキャプテンでも、言い方がひどい」

「もっと励ますような言い方をした方がいい」

「キャプテンとして、こういう言い方になるのは仕方がない」

など、いろいろな思いをもったことでしょう。

□ 4コマ目では、試合後にキャプテンとメンバーの心が離れてしまっていますね。なぜそうなったのでしょうか？

シュートした人は、はずそうと思ってシュートしたわけではありませんし、失敗したときには「しまった！」と思ったことでしょう。そのときにキャプテンが、「ドンマイ。次も頑張ろう！」と声をかけていたらどうだったでしょう。

シュートした人は、「今度こそ決めてやるぞ！」という気持ちになるのではないのでしょうか。

□ 言葉って難しいですね。

やる気が出る言い方もあるし、やる気なくなるような言い方もあります。

キャプテンも他のメンバーも、チームの勝利を願っている気持ちは同じです。みんなのやる気が出るような言い方をした方が、きっと伸び伸びとプレーできるのではないのでしょうか？

# みんなで 何でそうなるの？

チームのために言ったのに  
なぜきられなくちゃいけないんだよ？

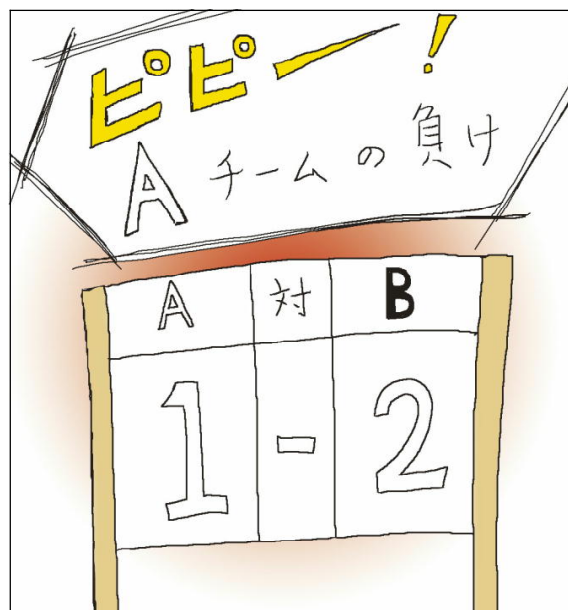
①



②



③



④

